

## 地域共生、協働は、地域活動団体から。

### 箱の浦自治会まちづくり協議会 会長 岡 保正

私達、『箱の浦自治会まちづくり協議会』は2012年6月地域で進む高齢者（当時人口1,900人高齢化率32%）社会を如何に取り組んで行くか？を課題に自治会役員が中心に、社協；民生委員；趣旨賛同者で立ち上げて10年に成ります。この間、高齢者が集える：喋れる為の施設として喫茶サロン：モーニング：100歳体操：ランチ；朝市；お助け隊を：地域の子供達のがびのびと健康に育つようと、『のびのびクラブ』と『子ども館』事業立ち上げ高齢者問題と地域のニーズの解決に取り組んで来ましたが、この間活動の中で幾多の壁にぶつかりその都度自力で又行政、社協、他団体の力を借りて解決をして来ましたが、昨今の高齢者のペースの速さに活動を如何に先行させるかに腐心をして来ました。特に、高齢者の認知症対策に取り組むについて、行政の介護保険課、地域包括支援センター、社協、の取り組みでは形式的に流れ本当に高齢者の認知：健康問題の解決に取り組む為には、高齢者の実態を一番良く知っている地域の私達『まちづくり協議会』が何らかの形で加わって行くべきでないかと考えて、行政からの協働を待つのでは無く、地域から協働を働きかけて行くべきだと、目的：取り組み；成果を考えて具体的には、先ず地域包括支援センター所長に趣旨を説明して協働の効果を理解して貰い、介護保険課、社協に説明を拡大し片方では、地域医療機関；薬局；デイサービス施設；介護用具店に働きかけて2020年『箱の浦地域福祉医療連携協議会』を医療機関2医院；薬局1店；デイサービスセンター3か所；介護用具店1店；理学療法士2名；ソーシャルワーカー民生委員2名計15団体の参加で立ち上げました、当まち協会長が委員長；包括支援センター長が事務局長と幹事を選び具体的に活動を開始しました。

独居老人で担当するケアマネジャーが医療機関の受診させる必要を認識していたが、頑として受診に応じず困り果てていたが、まち協の会長が説得して受診させ認定を受け現在は、ヘルパーの支援を受けデイサービスセンターに週2回通所しています、又認知症に付いても予防から協議会として取り組み、メンバーである医院と事前打ち合わせを行い認知の検査等を行って貰い、以後の家族：地域の取り組みをケアマネジャーと共に行って家族の安心等に寄与して成果を上げています、その他にも独居からは遺言書の残し方、認知検査を受けるが、認知症と診断された後の問題等々数多くの相談が寄せられ、ソーシャルワーカー：地域包括支援センターと緊密に連絡を取り合っ解決をしています。

この様に、地域からの働きかけで【箱の浦地域福祉医療連携協議会】活動を活発化させていますが、今一つ高齢者の足の問題が有り（まち協）では玄関から玄関へ調い文句に、『らくらく送迎』を立ち上げ月間50名（往復）の利用者で好評を得ています。今後も、【箱の浦地域福祉医療連携協議会】と【らくらく送迎】を中心に高齢者；こどもが元気での、地域づくりを目標に頑張って行きます。尚当阪南市でも各地域での『まちづくり』を目指し

ていますが、当協議会にも考え方、方法の参考意見を求められていますが、協議会では、【目的；運営方法；資金；地域でのニーズの把握；解決；成果の確認】を確認の上、行政が前面に出ず協議会が自主的に企画；運営出来る様にと提言を行っています。

” 地域共生：協働は待つのではなく地域からの働き掛けで成功する”